

平成27年度(2015年度)  
学校関係者評価委員会報告書

2016年3月

学校法人 新潟高度情報学園  
新潟高度情報専門学校

会議議事録

会議名	平成27年度 学校関係者評価委員会
開催日時	平成28年3月24日（木曜日） 11：00～12：10
場 所	一ノ 3F 会議室 新潟市中央区東堀通9番地1395 電話番号 025-229-1551
出席者	① 委員 守橋 主 氏、 後藤 彰宏 氏 ……（計2名） ② 学校 学校長、 教務課長(2名) (参加者合計5名)
議題等	1 開 会 2 平成27年度自己点検・自己評価結果の説明・審議 3 重点事項の改善について 4 意見交換 質 疑 応 答 詳 細 は、 別 紙 の と お り 5 閉 会  以上

I 重点目標について

重点目標①について

**職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびシラバスの充実を図る**

高度情報システム科では、企業インターンシップを行う科目を継続して実施。協力企業先でプログラム開発やテスト、レビューなどを行い、現場の技術者に評価して頂く機会を設けたことで、より実践的な職業教育が行えた。学生は学習と職業との違い、観点、意識の違いを吸収し、就業することについて意識が変わってきている。次年度、情報システム科での導入を検討。

情報工学科では、アクティブ・ラーニングを1年生から3年生まで合同で授業を実施。教育連携企業を中心とした複数社の協力のもと実施することができた。学生の主観と企業やビジネスを意識させた考え方とのギャップやそれを踏まえた授業展開など、内容を検討しながらの実施ではあるが、学生間での役割や今後の授業内容も含め、目的・内容を模索しながら当校のアクティブ・ラーニングの形を構築する。

情報系学科では、課外活動として昨年度に引き続き、新潟市南商工振興会との協働による鳥屋野潟を中心とした町おこしイベントに関わるプロジェクトや、新潟市潟開発研究所の学術研究として鳥屋野潟の調査に学生が参加している。鳥屋野潟での新たなロボット活用案など、活動内容も広がってきており、授業にも絡ませた形での対応も検討したい。また、ビジネス系学科の廃止に伴い、これまでビジネス系学科が実施してきた新潟市生涯学習センターとの協働による市民を対象とした各種パソコン講座を引き継いで実施する。

ゲーム系学科においては新潟市内のゲーム開発会社の協力を得て、ゲーム制作に関わる授業や作品評価を実施している。プロの目線で講義や評価を行ってもらうことで、学生の技術向上はもとより意識向上にもつながっている。

## 重点目標②について

### ネットワーク構成の整備および見える化を進める

当校および姉妹校のネットワーク環境において、利用端末の増加に伴うデータ量の増加等が原因となるネットワークの遅延が生じるため、構成機器の稼働状況を把握することが重要となってきた。ネットワーク機器の入れ替えを進め、関連ネットワークでの見える化、稼働状況やセキュリティにおける信頼性の向上に対応する。

## 重点目標③について

### 実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関への移行準備を検討する

2019年4月の開学を目指し、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化について、これまでに文部科学省の中央教育審議会で審議され、文部科学大臣に答申する流れとなっている。新たな高等教育機関の新設に向け、当校としても準備を進める。現在、移行のための準備委員会を姉妹と合同で組織し作業を進めている。

## Ⅱ 各評価項目について

### (1) 教育理念・目標

学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の各委員の方々との協力関係を強化し、今後も各課題に取り組む。また、問題点を掘り下げ、学校の対応できる幅を広げていく。自立できる学生を育成するため、アクティブラーニングや授業内で発表する機会を用意するなど学生が能動的に動く授業形態の構築を進める。

学生の内定先企業に対し、卒業生の評価および動向について把握する為、卒業生の所属する企業へアンケート行い、卒業生の動向および企業ニーズを収集し、職業教育に反映させたい。

### (2) 学校運営

学校運営における、制度・仕組みは整備されており、それらに則って行動している。組織の意思決定についてグループウェアを有効活用している。また、学生用グループウェアシステムの活用が向上し、各種連絡や就職活動の周知等利用されている。今後は授業との連携も強化する。

地域社会に対し、小中学校や企業との繋がりも広がってきたことで、ボランティア活動以外としても、カリキュラムとの連動を視野に対応を検討する。

### (3) 教育活動

職業実践専門課程としての充実を図る。

情報工学科をはじめ新潟高度情報専門学校の特色の一つである、アクティブラーニング授業を強化する。また、教員や学生の興味、探求心に対応できる様、十二ミーティングや実践ができる教室の設置、機器・機材、書籍の充実することを継続する。授業外でも、積極的に新潟市や新潟市南商工会議所と連動した地域イベントなどにボランティアとして参加し、ロボットコンテストやパソコン教室といったコンピュータを通して、小・中・高校生や地域の方達との交流にもつながっている。

ゲーム開発研究科・専門科・技術科では、メディア授業を取り入れることで、学生の習得できる知識の幅を広げることと、教員指導の力をかける部分・時間の効率化を検討する。

また、新たな知識・技術・指導力のために研修などに参加し、教員の専門性・質のスキルアップを図っている。内部研修を行う等教職員全体で共有する等実施を検討する。

【 質問 】

各種の研修会に参加し、それぞれ得た来た知識・情報は昨年と比較しどのように活用されているのか。

【 応答 】

報告書回覧による共有、学科内での共有は行っている。しかし、個々で得た知識の組織間の共有が報告書の回覧、学科内での共有にとどまっている。どの学科でも共通、共有化できる情報について、内部研修を行うまでには至っていないため、実施に繋げたい。

【 質問 】

C 言語の学習を通してアルゴリズムの理解に繋げ、学生のプレゼンテーションの機会を増やすこと等で、基本情報技術者試験の合格につながっている様子や学生の行動力に変化がみられたとあったが、基本情報技術者試験に続く上位試験への取組みはどのようになっているか。

【 応答 】

28年度のカリキュラムには、教育課程編成委員会でも指摘があった、能力別の学習機会を取入れた。入学後、半年で基本情報技術者試験を目指し、後半では学生らが効率的に上位資格試験の学習ができるよう能力別学習ができる科目を設置し、合格につながることを期待し実施する。

【 質問 】

ゲーム学科においては、スマホゲームやゲームエンジン、VR 等新たな取組みに対して、いままでのカリキュラムによるコンシューマー機の開発からスマホゲーム開発への移行などはどのように対応しているのか。スマートフォンアプリ開発について情報学科と連携できないのか。また、高校生にアピールできる材料になるのではないか。

【 応答 】

入学する学生の多くは、依然コンシューマー機上での開発を思い描いている。しかし、ゲーム業界ではスマートフォンゲームの開発とその制作スピードが大変早く、学生等の職種活動、希望職種選択の上でも検討事項となっている。現カリキュラムは、コンシューマー機上で挙動するゲームの開発を第一ととらえ、パソコンを利用したゲーム開発、ゲームショウ等のイベントやコンテストに参画している。習得には時間がかかるものであるが、企業の必要人材の一つであり、他のゲーム開発の基礎となる部分であるためカリキュラムとして、将来業界を希望する学生には重要な学習要素としている。

スマートフォンゲームやゲームエンジン、VR 等新たな技術への取組みは、学習項目の後半にカリキュラムとして取り入れている。カリキュラム導入後、学生作品もまとまってきたので、入学希望者や対外的にコンテンツとしてもまとめ、アピール材料として準備をすすめる。

また、スマートフォンアプリ開発については、ご指摘の通り、学習上の使用言語が情報学科とは異なり違いはあるにしろ、蓄積できた情報は互いに共有できるようにしたい。

#### 4 学修成果

情報学科では、情報処理技術者試験の受験について1年生は入学後、半年で基本情報技術者試験を受験する流れに移行し、カリキュラムや試験対策内容、学生指導等担当教員の働きより高い合格率、合格者を輩出することができた。今後も継続して良い結果が出せるよう取り組む。

卒業生との関係性が弱いと感じられる学科もあり、卒業生からの声が集まり易い環境を作ることを継続して検討する。更に、卒業生が在籍する企業から情報収集を行い、カリキュラムや在校生への指導に繋げることを検討する。卒業生との連携、卒業生が入社した企業からの情報収集、連携を図るためアンケートの実施等を行い連携の取り掛かりとする。

就職活動において、就職意識の低く就職活動に結び付かない学生がいた。

##### 【 質問 】

学生の就職希望調査等はどのように実施しているのか。

##### 【 応答 】

就職年次(卒業年次)の前年度より徐々に就職活動意識が変わるよう指導などを強める。キャリアデザイン授業を通して、本人・保護者の考えをまとめ就職希望の調査をしている。

自信が持てず就職活動に取り掛かれない学生や、保護者の中には気に入った会社じゃなければ急いで就職しなくてもよいと学生を尊重する方もいる。専門学校は、職業教育として社会ですぐ役立つ専門的な知識や技術の習得させることが中心であり、就職内定させることが目的となる。それには在籍中、学生に自信を着けさせ、就職活動・内定できるよう指導することが、学校および教員に求められる事と考える。学習内容や学生指導、就職指導といったことは、学生が変わったとしても学校および教職員に求められることであり、入学した学生については就職活動だけでなくドロップアウト等の指導にも繋がり、学校および教職員の指導力の向上を図ることが重要であると考え。



## 5 学生支援

学外活動の幅が広がっており、学生等のかかわり方や支援についてカリキュラムに組み込むことも含めサポートについて検討を進めている。

国よる経済支援に合わせ、法人でも経済的に就学困難な学生に対する授業料減免制度を設置した。

## 6 教育環境

概ね良好。

## 7 学生の受入れ募集

定員を充足する為、今後も各種説明会等の機会を増やし、入学希望者およびその保護者に当校の特色を正しく理解していただく。

また、女子生徒の入学割合を増やすこと、新学科を設置、SNS や Web 広告等のテコ入れも実施することで学校全体の募集活動に繋げる。

## 8 財務

27 年 4 月変更の学校法人会計に備え、人員を増やし対応し、適切な外部監査を行っている。

## 9 法令等の遵守

特になし。

## 10 社会貢献・地域貢献

地域に根差したパソコン講座を実施できなかった。学生が主体で実施しているが、学校を活用した地域貢献はできなかった。

他、新潟市や地域からの要請により特別授業やイベントでの学習講座、コンテスト運営等を継続して行っている。